



今月の大植びと

大久保 彩乃さん

(27歳・一般社団法人代表理事)

一般社団法人Tsubomi(つぼみ)の代表理事を務める大久保さん。大植の人が、地域を愛し、自分らしく輝けるために活動しています。

「ママだから無理」じゃなくママの視点で活躍する

Tsubomiではどのような活動をしていますか？

大久保さん(以下大)ーママのためのサロン、講座の開催や、仮設住宅に向いて楽器の生演奏をする音力フェなどを行ってききました。今年度から、おうちコミュニティプレイス事務局の運営も行っています。

事業を始めたきっかけは？

大ー震災後、AMDA大植



健康サポートセンターに所属し、サロン活動などをしていました。その間、自身の出産も経験した中で、自分の取り組みたいことが明確になったので、今の事業を立ち上げました。

活動するうえで大事にしていることは何ですか？

大ー特に子育てをするママのための事業においては、自分もママですから、その視点を生かして、等身大の姿を企画に反映させたいと思っています。仕事や、地域での活動をしたい人たちが、「ママだからできない」「じゃなく、ママの視点で活躍できる」町にするのが目標です。その意味では、自分もモデルになれる

ようにと、前向きに仕事に取り組んでいます。

環境は意志があれば変えていけると証明したい

これからの町で大久保さんが担う役割は何でしょうか？

大ー高齢化が進む今だからこそ、若い世代が意見を発信し、想いを形にしていこうとが必要だと思っています。私は、自分の目線、子育て世代を切り口に取り組んでいます

が、活動が広がり、多世代が一緒に町をつくっていかれたらと思います。そのためには、Tsubomiの掲げている、女性の働き方提案、雇用創出などを実現し、環境は意志があれば変えていけることを証明したいと思っています。



7月号 高橋 宏明さん
8月号 大久保彩乃さん

前号と今号の大植びとが対談するコーナーです。様々な分野で活躍する大植びとの皆さんが、誌面の上で出会います。「たし算」ではなく、「かけ算」の絆が、また新たな大植を創っていきます。

同年代で小さいお子さんもいるお二人ですが、子供の頃の町を思い出して、今あったらいいなと思うものは？

高橋さん(以下高)ー子どもが一人でお小遣いを持って行けるようなお店が無いなと思います。例えば駄菓子子屋みたいな。

大久保さん(以下大)ー確かに。私は町方ですけど、花火屋さんが思い出深いです。遊び場やたまり場ももつとありましたよね。公園とか、「ふれセン」とか。

ふれあいセンターの事を「ふれセン」と言ってますね(笑)

高ー僕達の世代はみんな言いますね。

大ーあと浅沼のあぶらまんじゅうが美味しかった。

高ーあー、「あぶまん」(笑)。

お二人が互いの分野で協力して何かするとしたら、どんな事をしてみたいですか？

大ー例えば障がいのあるお子さんのお母さん達って、子育てイベントにも参加しにくいかもしれない。そういう人向けの企画をする時、助言いただけると助かります。

高ー子どもへのサポートはあっても、親御さんへのサポートは少なくて、皆さん自分で勉強して頑張ってるんです。息抜きの場ができたらずいぐく良いと思います。

